

第49週(12月2日～12月8日)トピックス: <インフルエンザ>

京都市の第49週のインフルエンザの定点当たり報告数は6.40で、前週(3.96)から増加しました。全国でも9.03となり、前週(4.86)から増加しました(図1)。

インフルエンザは例年、12月～3月頃に流行し、夏季にはほとんど報告がないため、流行時期に合わせ第36週(9月上旬)から翌年第35週までを1シーズンとして発生動向を観察することが一般的です。

2020/21～2021/22年シーズンは新型コロナウイルス感染症の流行による感染対策の徹底等により、インフルエンザの報告はほとんどありませんでしたが、2022/2023シーズン以降は、それ以前の感染状況に戻っています(図2)。

今シーズン(2023/2024シーズン)は全国が第44週に、本市が第46週に定点当たり報告数が、流行入りの目安である「1.0」を超過した後、急増してきており、例年と同様の傾向が見られます。今後さらに報告数の増加が予想されますので、発生動向に注意が必要です。

インフルエンザは感染症法上5類の定点把握感染症に分類されており、インフルエンザウイルスを病原体とする感染症です。A型B型に分類され、ヒトに感染するのは主にA型では、H1N1、H3N2です。複数の型があるため、同じシーズン中に複数回感染することもあります。症状は、38℃以上の発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛など全身の症状が突然現れます。併せて、のどの痛み、鼻汁、せきなどの症状も見られ、小児ではまれに急性脳症を、高齢者や免疫力の低下している人では肺炎を併発する等、重症化することがあります。

このため、65歳以上の高齢者では、重症化予防のため、インフルエンザワクチンの接種が推奨されています。ワクチンを接種すれば、インフルエンザに絶対に罹患しないというものではありませんが、発病後の重症化や死亡を予防することに関して、一定の効果があることが認められています。

本市においては、65歳以上の市民を対象にインフルエンザ予防接種が令和6年10月15日～令和7年1月31日に実施されています(下記ホームページ参照)。重症化予防のため、積極的にインフルエンザワクチンを接種をしましょう。

今後、インフルエンザの更なる感染拡大も予想されますので、感染防止のために手洗いや咳エチケットの励行、免疫力向上のためにバランスの取れた食事や十分な睡眠などを心掛けましょう。

- 令和6年度高齢者インフルエンザ定期予防接種のお知らせ(京都市情報館)

<https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000331799.html>

- 令和6年度インフルエンザ対策について(京都市情報館 医療衛生企画課)

<https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000334696.html>

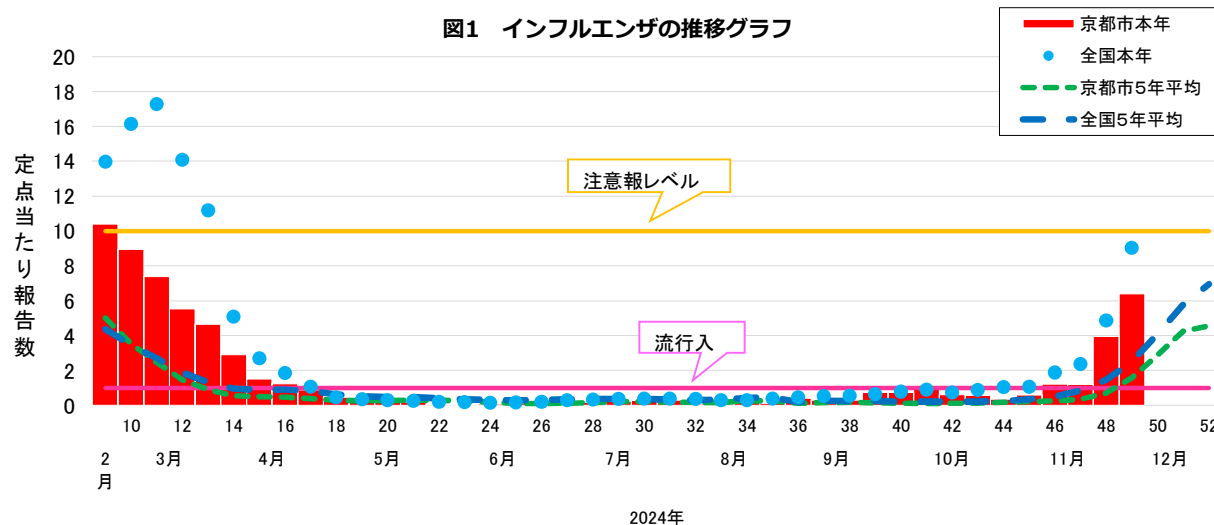


図2 京都市及び全国の定点当たり報告数の推移(2024年第49週まで)

